

音楽の「鑑賞」の授業に関する一考察

—小学校第1学年の児童を対象として—

川原 真矢*¹・森本由希絵*²・佐伯 英人

A Study on "Appraising" in Music Classes:
A case of 1st grade elementary school pupils

KAWAHARA Maya*¹, MORIMOTO Yukie*², SAIKI Hideto

(Received August 3, 2017)

キーワード：音楽、鑑賞、小学校第1学年

はじめに

2008年告示の「小学校学習指導要領」では、音楽の第1学年及び第2学年において鑑賞の活動を通して、表1の事項を指導することが示されており (p. 76)、また、鑑賞教材として表2に示すものを取り扱うことが示されている (p. 76)。

表1 鑑賞の活動を通して指導すること

- | |
|---|
| ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。 |
|---|

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領』より

表2 鑑賞教材で取り扱うもの

- | |
|--|
| ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景などを思い浮かべやすい楽曲
イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲
ウ 楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲 |
|--|

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領』より

C. サン・サーンス作曲の組曲「動物の謝肉祭」は、全14曲で構成されており、動物のイメージを音楽で表現している。「動物の謝肉祭」を鑑賞教材として授業を実践した事例 (先行研究) には、森保・圓城寺・権藤・寺内・明道 (2014) がある。森保ほか (2014) では「動物の謝肉祭」の第5曲「象」と第7曲「水族館」を鑑賞教材として選択し、第2学年で授業を実践した。授業では、児童に音楽を聴かせ、なりたいものになって体で表現させたり、想像させて言葉や絵で表させたりしている。教員が児童の活動のようすを見取り、「サン＝サーンスが《水族館》や《象》という題名をつけた音楽に直接向き合った子どもたちは、からだで表したりリズムをとったりして音楽に親しみ、想像したことを言葉や絵にしたりしながら、自分の外側にある音楽を自分なりに生き生きと捉えている」と述べている。このことから、「動物の謝肉祭」は表2のイに該当する曲と考えられる。

*1 山口大学教育学部附属山口小学校 *2 山陽小野田市立出合小学校

1. 研究の目的

本研究では、「動物の謝肉祭」の第1曲「序奏と獅子王の行進曲（序奏を除く）」、第5曲「象」、第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」の5曲を鑑賞教材として選択し、第1学年で鑑賞の授業を実践した。授業では、表1のア～ウに示されているように、楽曲の気分を感じ取らせ、音楽の要素を聴き取らせ、動物のイメージと関連付けながら聴かせ、楽曲の特徴や演奏の楽しさに気付かせるようにした。本研究の目的は、第1学年で鑑賞の授業を実践し、授業を受けた児童の意識を調査・分析し、授業の有効性について議論することである。

2. 単元の展開と授業実践

2-1 単元の展開

単元は授業①～授業④で構成した。授業①は45分間を2回、授業②～授業④は45分間で実施した。単元の展開を表3に示す。なお、単元の展開は川原（2016）を参考にした。

表3 単元の展開

授業	学習活動	時数
授業①	第1曲、第5曲、第6曲、第7曲、第13曲の題名になっている動物をイメージさせて聴かせ、自分の予想を発表させた。次に、第1曲について、そのように思ったわけ（理由）を発表させ、第1曲の中から「こわい音」を探させた。また、第5曲について、そのように思ったわけ（理由）を発表させた。	2
授業②	第1曲の「こわい音」と「やさしい音」を示させ、そのように感じる要因を探させた。	1
授業③	第6曲、第7曲、第13曲について、そのように思ったわけ（理由）を発表させた。次に、自分の予想した動物になり、自分の体を使って表現させた。	1
授業④	作曲者がつけた各曲の題名の動物らしさを曲を聴く中で探させ、自分の体を使って表現させた。次に、お気に入りの曲を選択させ、その理由を発表させた。	1

2-2 授業実践

(1) 授業①

授業①の1時間目について以下、示す。第1曲「序奏と獅子王の行進曲（序奏を除く）」、第5曲「象」、第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」の題名になっているライオン、象、カンガルー、水族館、白鳥の絵を児童に見せた。絵を見せる際、児童には象、ライオン、白鳥、カンガルー、水族館の順で見せた。次に、これらの動物（水族館を含む）が、これから聴く曲の題名になっていることを伝え、児童に学習課題「どのきょくが、どのどうぶつかかんがえてきこう」を提示した。題名になっている動物をイメージしながら聴かせ、自分の予想を図1のワークシートの①の□に書かせた。

まず、児童に第1曲「ライオン」を聴かせ、自分の予想を発表させた。児童の予想が発表された後、教員は、児童に問いかけ、そのように思ったわけ（理由）を発表させた。児童と教員の対話（第1曲の題名になっている動物について話し合っている場面）を表4に示す。表4で示した児童の番号は、表4の中で区別するために付けたものであり、他表（表5～表7、表9）の児童の番号との関連は図っていない。なお、表4の3名の児童（C1～C3）は、第1曲の題名になっている動物がカンガルーや白鳥ではないと思っている。曲を聞いてこわいと感じたことが、そのように思ったわけ（理由）である。

上記の第1曲「ライオン」と同様の方法を用いて、他の4曲（第5曲「象」、第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」）についても、児童の予想を発表させた。その後、児童に問いかけ、そのように思ったわけ（理由）を発表させた。授業の終了時、自分の予想を図1のワークシートの②の□に書かせた。

表4 児童と教員の対話（第1曲の題名になっている動物について話し合っている場面）

T：カンガルーは、ちがうの？
 C1：ちがう。
 C2：だってさあー。カンガルーってさー。こわくないもん。
 T：何？C2さん
 C2：カンガルーってさあ。こわくないもん。最初、こわいもん。
 T：今の曲、こわかったの？
 C2：うん。だからさ、白鳥も、ちがうもん。
 C3：白鳥は、ちがうやろ…。
 T：白鳥は、ちがうの？
 C3：だってさ、…。
 C2：白鳥は、だってさ、こわくないもん。ちがうやろ。
 C3：ライオンか、象やろ。

C1～C3：児童， T：教員

授業①の2時間目について以下、示す。なお、授業①の2時間目は校内研修の公開授業として実施した。

学習課題は前時（授業①の1時間目）と同様、「どのきょくが、どのどうぶつかかんがえてきこう」である。児童には、曲を聴いた後、なぜ、その動物と思ったのかを発表することを伝えた。

児童に第1曲「ライオン」を聴かせ、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を図2のワークシートに書くように指示した。その後、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を発表させた。児童と教員の対話（第1曲の題名になっている動物について話し合っている場面）を表5に示す。表5で示した児童の番号は、表5の中で区別するために付けたものであり、他表（表4，表6，表7，表9）の児童の番号との関連は図っていない。なお、表5の5名（C1～C5）の児童は、曲の中にこわさを感じ取っており、音がその要因であることを話している。そこで、曲中のどこでこわいと感じたのかを明らかにするために、「こわい音と思ったところで手を挙げながら聴いてみよう」と指示し、再度、児童に第1曲を聴かせた。児童は曲中で数十回、手を挙げた。そのため、「こわい音」と思ったところが多数あることが分かった。

次に、児童に第5曲「象」を聴かせ、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を図2のワークシートに書くように指示した。その後、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を発表させた。児童からは「象と思う。象の足音がするから」という意見が発表された。そこで、再度、児童に第5曲を聴かせ、「象が歩いたと思ったところで、足踏みをしてごらん」と促し、曲を聴かせた。このとき、3拍子の1拍目の強拍で足踏みをしていた児童がいたので、学級全体に紹介し、曲にあわせて足踏みをさせた。強拍で足踏みをしようすを見た児童から「曲に合っている。象が歩いている」という意見が発表された。

表5 児童と教員の対話（第1曲の題名になっている動物について話し合っている場面）

C1：ライオンだと思います。なぜかと言うと、最初、獲物を探していたライオンがいて、それから獲物を発見して、それで、獲物があったところに走って行った。
 T：どうして走って行ったと思ったの？
 C2：だって、獲物は…。急がなきゃあ、獲物が逃げちゃう。
 T：C2くんは、曲の中で、走ったところ見つけたの？どこ？
 C2：こわくなったところ。
 T：こわくなったところ？こわくなったところって、みんなさっきから「こわい、こわい」って言っているんだけど、どこのことかな？
 C3：途中でこわくなった
 T：途中でこわくなった。それは、どこ？
 C3：えっと…。
 T：それは分からないんだね。「ここの音がこわいんだよ」とか、「走ってるんだよ」とか、言える人いる？
 C4：やさしい音が終わった後のとき。
 C5：最初やさしかったけど、途中から…。

C1～C5：児童， T：教員

(2) 授業②

授業①で第1曲「ライオン」、第5曲「象」について学習したので、授業②では第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」の鑑賞をする予定であった。しかし、児童が音楽室に集合した際、第1曲を多くの児童が口ずさんでいた。教員が「その曲がまだやりたいのね」と問いかけると、多くの児童が「やりたい」と言ったため、本時の予定を変更し、第1曲を用いて音についての学習を深めることにした。

第1曲について学習課題「どのおとがこわいのか」と「どのおとがやさしいのか」を提示した。児童には、曲を聴いた後、まず、「こわい音」を発表するように伝えた。

児童に第1曲「ライオン」を聴かせ、「こわい音」を探させた。その後、児童に「こわい音」を発表させた。児童と教員の対話（第1曲の「こわい音」について話し合っている場面）を表6に示す。表6で示した児童の番号は、表6の中で区別するために付けたものであり、他表（表4、表5、表7、表9）の児童の番号との関連は図っていない。このとき、教員は、適時、ピアノで第1曲の一部を弾き、児童と対話した。なお、児童のいう「こわい音」とは、音の大きさが大きい音、また、音の高さが低い音であった。これらの音は、弦楽器の音やピアノの半音階の音である。

次に、児童に第1曲を聴かせ、「やさしい音」を探させた。その後、児童に「やさしい音」を発表させた。児童と教員の対話（第1曲の「やさしい音」について話し合っている場面）を表7に示す。表7で示した児童の番号は、表7の中で区別するために付けたものであり、他表（表4～表6、表9）の児童の番号との関連は図っていない。このとき、教員は、適時、CDで第1曲の一部をかけ、また、手でリズム打ちをさせて児童と対話した。なお、児童のいう「やさしい音」とは、音の高さが高い音であり、軽快なリズムであった。この音はピアノの音である。

表6 児童と教員の対話（第1曲の「こわい音」について話し合っている場面）

T：じゃあ。こわい原因のひとつは、音が大きいってことなんだね。
C1：うん。
C2：音が低いから！
T：ん？音が低い？
C3：同じです！
T：音が低いってどういうこと？
C4：低いって大きいだよ。
C5：暗い音。
T：こわい原因は、大きい音、低い音。高い音はこわいの？
C6：こわくない！
C7：高い音はやさしい！
T：高い音はやさしいの？大きくなって低い音は、こわいんだね？高かったら同じ音でもこわくないのね？不思議だね。
C8：うん。
（第1曲のモチーフ（第1曲「序奏と獅子王の行進曲」の18小節目）を、教員がピアノの基準のラより1オクターブ低い「ラ」の音から弾いて聴かせた）
C9：こわい。
T：低ければ低いほどこわいんだね。
C10：こわい！
C11：こわくない！
T：じゃあね。今から音の高さを変えて弾くから、あーここがこわいかなって思ったら教えて。まず、最初のいつもの音ね。
（第1曲のモチーフを教員が、ピアノを弾き、次に、1オクターブあげて弾き、さらに1オクターブあげて弾き、さらに1オクターブあげて弾き、児童に聴かせた）
C：（口々に）こわくない！
T：じゃあ最初よりも低くするよ（1オクターブ下げて弾いて聴かせた）
C：（口々に）こわい！
C6：でもね、なんか一番こわい最初するときよりも、すごいこわいところはリロリロリロってところ。
T：C6くんが言いたいこと、みんなわかった？
C7：うん、わかった。
T：ここよりもこわいところがあるんだって。

C12：え！
 C：（第1曲の半音階の部分を口ずさむ）
 T：ここでしょ？（半音階の部分を弾く）この音がこわいって言ってたんだよね。
 C9：その音、ぼくもこわい。
 T：じゃあ、どうして、この音がこわいの？
 C10：だって、音が大きいから！
 T：ああ。音が大きいから、こわい。
 C10：それと低いし…。
 C11：音が低いから。
 T：低い音はこわいんだ。
 C12：どんどん暗くなる。
 T：暗くなる？低い音っていうのは、こわいの？
 C13：そうそう。暗くなったら、こわくなる！
 T：低い音っていうのが暗くなるんだ。だから、こわくなるんだ。

（ ）：活動内容，C1～C13：児童，C：複数の児童，T：教員

表7 児童と教員の対話（第1曲の「やさしい音」について話し合っている場面）

（第1曲の最初のピアノの音（第1曲「序奏と獅子王の行進曲」の13小節目）をCDをかけて聴かせた）
 T：今のところの音は？
 C1：高い、明るい音。
 C2：やさしい！かわいい！
 T：どんなところが、かわいかった？
 C3：ぴよこぴよこ跳んでいるみたい。
 T：ぴよこぴよこ跳んでみたい？どうして、ぴよこぴよこ跳んでいるみたいって思ったの？
 C4：ジャンジャガジャンのときに跳び出してジャンプしているみたい。
 T：ジャンプしているような音が聞こえたの？どんなところがジャンプみたいだった？
 （第1曲の最初のピアノの音をCDをかけて聴かせた）
 T：ねえねえ、ここのことなんだけど、ここの音のどんなところが…。
 T：C3くんは、ここのところがどうしてジャンプみたいだと思った？
 C3：えっと、音が…なんかジャンプしているみたいな音だったから。
 T：ジャンプしているみたいな音って、どういうこと？
 C5：音が高いから！
 T：音の高さなの？高さが高いからジャンプしてるみたいと思ったの？ほかにもあるよっていう人いる？
 C6：なんか…音がジャンプしているみたいなのは…なんか…音が…タンタンってなってるから。
 T：音がタンタンってなってる、あ、リズムのこと？
 C7：うん。
 T：じゃあさ、ここのリズムって、どんなリズム？ちょっとリズム打ちしてみようか？
 （第1曲の最初のピアノの音をCDをかけて聴かせ、曲に合わせてリズム打ちをさせた）
 C：（拍子のリズム打ちをする）
 T：本当にそんなリズム？よく聞いてごらん。
 （再度、第1曲の最初のピアノの音をCDをかけて聴かせ、曲に合わせてリズム打ちをさせた）
 C：（リズム打ちをする）
 T：（曲を止めて）どんなリズムだった？せーの。
 C：（第1曲の最初のピアノの音のリズム打ちをする）
 T：こういうリズムがジャンプしているみたいだったの？
 C8：うん。
 T：ジャンプ？ぴよんぴよんって感じがした？
 C9：うん。
 C10：（その場で小さくジャンプする）
 T：ジャンプのリズムだったんだ。だから、やさしいとか、かわいいとか言ってたんだね。

（ ）：活動内容，C1～C10：児童，C：複数の児童，T：教員

（3）授業③

学習課題は授業①と同様、「どのきょくが、どのどうぶつかかかんがえてきこう」である。児童には、3曲（第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」）を聴いた後、なぜ、その動物と思ったのか

を発表することを伝えた。

児童に第6曲を聴かせ、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を図3のワークシートに書くように指示した。その後、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を発表させた。児童からは「カンガルーと思う。ぴょんぴょん跳んでいる音がした」という意見と「水族館と思う。魚がびちゃびちゃ跳ねている」という意見が発表された。

次に、児童に第7曲を聴かせ、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を図3のワークシートに書くように指示した。その後、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を発表させた。児童からは「水族館と思う。海の中や海の底で魚が泳いでいるみたい」という意見と「白鳥と思う。きれいだから」という意見が発表された。

さらに、児童に第13曲を聴かせ、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を図3のワークシートに書くように指示した。その後、自分の予想とそのように思ったわけ（理由）を発表させた。児童からは「白鳥と思う。白鳥が羽を広げているみたい」や「白鳥が泳いでいるみたい」という意見と「水族館と思う。魚がすいすい泳いでいるみたい」という意見が発表された。

「自分が予想した動物になって曲に合わせて動いてみてごらん」と促し、3曲（第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」）を聴かせ、自分の体を使って表現させた。

(4) 授業④

導入時、授業で鑑賞した曲は、組曲「動物の謝肉祭」の中の5曲であり、作曲者がC. サン・サーンスであることを伝えた。また、作曲者がつけた題名は、1曲目の題名が「ライオン」、2曲目が「ゾウ」、3曲目が「カンガルー」、4曲目が「水族館」、5曲目が「白鳥」であることを伝えた。このとき、作曲者がつけた題名と自分がイメージし、予想した動物が違っていても、間違いではないことを説明した。

本時は、第1曲「ライオン」、第5曲「ゾウ」、第6曲「カンガルー」、第7曲「水族館」、第13曲「白鳥」について「曲のどの部分に動物らしさを感じるか」をイメージながら聴くように指示し、各曲を聴かせた。その際、動物らしさを感じたら、その動物になってみようという指示し、その動物になって自分の体を使って表現させた。児童の様態として、具体的に「ライオン」では手を上げ下げするようす、「ゾウ」では手や床を叩いてリズムをとるようす、「カンガルー」ではとび跳ねるようす、「水族館」では両手を合わせて両手を左右に振るようす、「白鳥」では両手を広げて上下に振るようすなどがみられた。

次に、本時の学習課題「おきにいのきよくを、しょうかいしよう」を提示し、5曲の中で、お気に入りの曲を1つ選択させ、どのようなところがお気に入りなのかを図4のワークシートに書くように指示した。その後、児童にお気に入りの曲と、お気に入りの理由を発表させた。授業の終了時、「『どうぶつのしゃにくさい』のきよくで、おもしろいとおもったことをかきましょう」を書かせ、授業のまとめとした。

このきよく、なんだ？ ① がつ にな なまえ（ ）

○ どの どうぶつ を、おもい うかべ ますか。 どうぶつ の したに、でてきた ばんごう を かきましょう。




ぞう らいおん はくちょう かんがろう すいぞくかん

①

②

図1 授業①の1時間目で使用したワークシート

このきよく、なんだ？ ① がつ にな なまえ（ ）



○ おもい うかべた どうぶつ の なまえ を かきましょう。 よくに、どうして その どうぶつだと おもったかを かきましょう。

①きよくめ


どうぶつのなまえ	どうして その どうぶつだと おもったのですか？

②きよくめ

どうぶつのなまえ	どうして その どうぶつだと おもったのですか？

図2 授業①の2時間目で使用したワークシート

このきよく、なんだ?③ がつ にち ()




③きよくめ
どうぶつのなまえ どうして その どうぶつだと おもったのですか?

④きよくめ
どうぶつのなまえ どうして その どうぶつだと おもったのですか?

⑤きよくめ
どうぶつのなまえ どうして その どうぶつだと おもったのですか?

図3 授業③で使用したワークシート

どうぶつの しやくさい サン=サーンス がつ にち ()



①ライオン ②ぞう ③カンガルー ④すいそくかん ⑤はくちょう

•おきにいりの きよくを、しょうかいしよう。(どんな ところが おきにいりか おしえてね)

きよくの名まえ どうな ところが おきにいり ですか?

•「どうぶつのしやくさい」の きよくで、おもしろいと おもったことを かきましよう。

図4 授業④で使用したワークシート

3. 調査方法と分析方法

調査には質問紙法（選択技法，記述法）を用いた。質問紙では「問い」を設定した。「問い」の選択技法による調査では「きよのじゅぎょうをうけて、あなたがおもったことをおしえてください。それぞれの『しつもんこうもく』で、あてはまるもの一つずつ○をつけてください」という指示を行い、表8の質問項目①～質問項目④について5件法（とてもあてはまる，だいたいあてはまる，どちらともいえない，あまりあてはまらない，まったくあてはまらない）で回答を求めた。また、「問い」の記述法による調査では「また、そのようにおもったわけ（りゆう）など、かけるものについて、かいてください」という指示を行い、表9（表8）の質問項目ごと（質問項目①～質問項目④）に記述欄を設定し、自由記述で回答を求めた。この調査は授業①～授業④の終了後にそれぞれ実施した。

分析するにあたり、選択技法による調査については、5件法の「とてもあてはまる」を5点、「だいたいあてはまる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「まったくあてはまらない」を1点とした。この得点を用いて平均値と標準偏差を算出し、天井効果の有無、床効果の有無を確認した。この調査において質問項目①～質問項目④は、得点の値が高いほど良好な状況を示す質問項目として設定した。そのため、天井効果がみられた場合、児童の意識は良好と判断し、床効果がみられた場合、児童の意識は不良と判断した。記述法による調査については、記述の内容を読み、児童がそのように感じた要因（児童の意識の背景）を見取ることができたものを抽出し、記述内容の同質性にもとづいて分類した。また、選択技法による調査をもとに「とてもあてはまる」と「だいたいあてはまる」を「ポジティブな意識」、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を「ネガティブな意識」、「どちらともいえない」を「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」と分類した。

4. 結果と考察

質問紙の「問い」の選択技法による調査を分析した結果（平均値，標準偏差，天井効果の有無，床効果の有無）を表8に示す。授業①～授業④の質問項目①「おもしろかった」、質問項目②「よくわかった」、質問項目③「よくかながえた」、質問項目④「もっとやりたい」において天井効果がみられた。このことから、児童の意識は良好であったといえる。児童の意識が良好であったことは、児童が「おもしろかった」、「よくわかった」、「よくかながえた」、「もっとやりたい」と思ったことを示しており、授業の有効性を示唆している。

質問紙の「問い」の記述法による調査を分類した結果を表9に示す。記述内容の同質性にもとづいて分類した結果、6つ（音楽の要素、クイズ、考えたこと、表現したこと、友達とのかかわり、その他）になった。表9に示した児童の番号（C1～C16）は、表9の中で区別するために付けたものであり、他表（表4～表7）の児童の番号との関連は図っていない。表9では「音楽の要素」をA、「クイズ」をB、「考えたこと」をC、「表現したこと」をD、「友達とのかかわり」をE、「その他」をFと表記し、また、「ポジティブな意識」を◎、「ネガティブな意識」を▲と表記した。「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」はみられなかったので表記しなかった。

表9をみると、児童の記述の多くが「ポジティブな意識」に関するものであった。そのため、表9から見取ることができる児童がそのように感じた要因（児童の意識の背景）は、主に「ポジティブな意識」に関するものといえる。児童がそのように感じた要因として「音楽の要素」、「クイズ」、「考えたこと」、「表現したこと」、「友達とのかかわり」があり、「音楽の要素」、「クイズ」、「考えたこと」はすべての授業（授業①～授業④）でみられ、「表現したこと」は授業③でみられ、「友達とのかかわり」は授業②～授業④でみられた。つまり、児童の意識が良好であった要因として「音楽の要素」、「クイズ」、「考えたこと」、「表現したこと」、「友達とのかかわり」があったといえる。

表8 質問紙の「問い」の選択技法による調査を分析した結果

番号	質問項目	N	分析の内容	授業①	授業②	授業③	授業④
①	「おもしろかった」	32	平均値	4.75	4.66	4.47	4.62
			標準偏差	0.67	0.79	1.05	0.94
			天井効果	●	●	●	●
			床効果	-	-	-	-
②	「よくわかった」	32	平均値	4.34	4.34	4.31	4.56
			標準偏差	0.94	0.97	1.03	0.76
			天井効果	●	●	●	●
			床効果	-	-	-	-
③	「よくかんがえた」	30	平均値	4.57	4.47	4.27	4.40
			標準偏差	0.82	0.82	1.08	1.04
			天井効果	●	●	●	●
			床効果	-	-	-	-
④	「もっとやりたい」	30	平均値	4.43	4.53	4.40	4.53
			標準偏差	1.04	1.07	1.04	0.97
			天井効果	●	●	●	●
			床効果	-	-	-	-

●：効果あり， -：効果なし

表9 児童の記述を分類した結果

授業	質問項目	意識	記述内容	分類					
				A	B	C	D	E	F
授業①	おもしろかった	◎	C1：おんがくのおとがおもしろかったです	○					
			C2：おんがくのおとがおもしろかった	○					
			C3：いろいろなおとがきこえたから	○					
			C4：きよくをあてるのがたのしかった		○				
			C5：せんせいがみにきてくれたのがたのしかったです						○
			C6：いっぱいせんせいがみにきたから						○
	よくわかった	◎	C6：さいしょはなやんでいたけどよくかんがえたらわかった			○			
		▲	C4：ちょっときこえなかった。						○
	よくかんがえた	◎	C1：きよくをあてはめるのがたのしかったです		○				

			C2：わからないときよくかんがえた			○				
			C6：よくかんがえないとできないむずかしいことだったから			○				
			◎	C3：おもしろかったから					○	
			◎	C6：たのしくてよくわかったから					○	
もっとやりたい	◎	▲	C7：せんせいにみられるのがはずかしい					○		
		◎	C2：おととかこたえるのがおもしろかった	○						
		◎	C1：きよくあてくはず		○					
授業②	おもしろかった	◎	C6：すきなおんがくだったから					○		
			◎	C8：せつめいでよくわかった					○	
	よくわかった	◎	C6：みんながしずかにしたから						○	
			◎	C2：わからないときにかんがえた			○			
よくかんがえた	◎	C9：おもしろいことだったから						○		
		もっとやりたい	◎	C1：きよくあてクイズがたのしかったからです		○				
C4：いろんなたのしかったことをまたしたい								○		
C10：たのしかったもっとやりたい								○		
C6：おんがくのおべんきょうがいちばん好きだから								○		
授業③	おもしろかった	◎	C2：おんがくがおもしろかった	○						
			C10：おんがくが、おもしろかった	○						
			C1：きよくあてクイズがおもしろかったです		○					
			C12：おんがくをあてるのがたのしかったです		○					
			C11：かんがえるのがおもしろかったです			○				
	よくわかった	◎	C13：じゅぎょうちゅうにみんなどうぶつになりきっていた				○			
			◎	C1：きよくあてくはずのこたえがわかりました		○				
				C2：せつめいがよくわかった					○	
よくかんがえた	◎	C4：よくきけた						○		
		◎	C6：さいしょわからなかったけど、かんがえてよくわかった			○				
もっとやりたい	◎	C4：きよくあてをもっとききたい		○						
		◎	C1：たのしいから						○	
		C14：たのしかったからもっとやりたいよ							○	
授業④	おもしろかった	◎	C2：おんがくのこえがおもしろかった	○						
			C3：こたえがしれたから		○					
			C15：3こたえがあっていたから		○					
	よくわかった	◎	C1：きよくをきいて、おともだちのいけんがわかったから						○	
			C2：みんなのせつめいがよくわかった						○	
			C4：みんながはなしたことがわかった						○	
			C6：おもしろかったから						○	
	よくかんがえた	◎	C2：わからないときによくかんがえた			○				
			C16：どうぶつのきよくで、どうぶつらしいところをかんがえた			○				
	もっとやりたい	◎	C3：まちがえてもおもしろいから		○					
			◎	C1：たのしいからです						○
			C4：また5きよくききたい							○

◎：ポジティブ，▲：ネガティブ，C1～C16：児童，A：音楽の要素，B：クイズ，C：考えたこと，D：表現したこと，E：友達とのかかわり，F：その他

おわりに

授業では、前述したように、楽曲の気分を感じ取らせ、音楽の要素を聴き取らせ、動物のイメージと関連付けながら聴かせ、楽曲の特徴や演奏の楽しさに気付かせるようにした。その結果、授業を受けた児童の意識（「おもしろかった」、「よくわかった」、「よくかんがえた」、「もっとやりたい」）は良好であり、授業の有効性が示唆された。児童の意識が良好であった要因として「音楽の要素」、「クイズ」、「考えたこと」、「表現したこと」、「友達とのかかわり」があったことも明らかになった。換言すると、これらの要因は、鑑賞の授業における大切な要素といえる。

今後、「動物の謝肉祭」以外の教材を用いて、また、他の学年において実践研究を行い、授業のあり方について検討していきたい。

文献

川原真矢（2016）：「イメージと音楽の要素とを関連付ける鑑賞活動で、音楽的感受性を育む」、『平成28年度研究集録（初等教育研究紀要 第57号）』、山口大学教育学部附属山口小学校、pp. 48-51.

森保尚美・圓城寺佐知子・権藤敦子・寺内大輔・明道春奈（2014）：「音楽科の特性に応じた思考を育むカリキュラムの開発（Ⅱ）—小学校低学年を中心に—」、『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』、第42号、pp. 67 - 76.

文部科学省（2008）：『小学校学習指導要領』、文部科学省、237pp.